

ひろは

Vol.112

2009.3.15.

東京工芸大学同窓会

<http://www.t-kougei.gr.jp>

発行人 田沼 武能

〒164-8678

東京都中野区本町2-9-5

Tel 03-3372-1321

design SALAT

「新しく東京工芸大学の 同窓生となられた諸君に」

東京工芸大学ご卒業、心よりお祝い申し上げます。諸君はいよいよ学生生活を離れ、次の新しい扉を開くわけです。東京工芸大学は2013年に創立90年を迎えますが、その長い歴史を一貫して、メディアの芸術と技術分野の人材を育ててきました。卒業生の諸君には、この東京工芸大学の伝統を受け継ぎ、気概をもって次の時代の先導者になってもらいたいと思います。そのための大切なこととして東京工芸大学の卒業生であることに誇りをもち、威張らず凛とすることを心掛けてほしいと思います。

大学を卒業後の人生においては、うまくいかないことも落ち込むことや様々な葛藤、先が見えなくなるようなこともあるかもしれません。その一方で、必ず新たな発見、新しい希望、さらにはその夢の実現に遭遇するはず。くじけず常に可能性を求めて未来に挑戦してほしいと願います。

東京工芸大学は諸君にとっていうまでもなく母校であります。同窓会とは母校を共有する団体であり、これから諸君は東京工芸大学同窓会の最も若い構成員です。ところで、同窓会は企業や機関の組織とか職制、職務のような権利や義務を伴ういわゆるフォーマルな組織ではなく、いわばインフォーマルな同じ釜の飯を食った仲間です。卒業後の仕事や地域社会で、同窓であるということですぐにうち解け合うこともしばしば経験するはず。同窓ということが判ると、初対面でも何となく親しみを感じるなど、理屈抜きで和気あいあいとした仲間意識が醸し出されることも事実です。また、学生時代に勉学・遊びなどの学園生活を通して得た友人との信頼関係や、授業・卒業研究・卒業制作の指導を通して培われた先生方との強い絆は、仕事においても日常生活においても心強いネットワークとして役立つはず。このことを今後大いに活用してほしいと思います。そして、諸君がこの母校、東京工芸大学で学び、考え、感じ、触発されていたことを時々思い出して頂きたいのです。母校の活動、後輩たちの活動も気にとめておいてほしいと思います。

東京工芸大学同窓会は2007年に創立80周年を迎えました。会員には90才を越える方もいらっしゃいます。このような脈々と受け継がれる歴史と伝統の潮流の中に、諸君もいることを実感して頂きたいのです。

諸君のこれからの活躍を同窓生の一人として祈っております。



東京工芸大学芸術学部学部長 内藤 明

(東京工芸大学同窓会理事：47期)

写真学科

八木 英里奈



なぜ大学で写真を学ぶことにしたのでしょうか。私の場合、写真に興味を持ったきっかけは定かではないのですが、写真を志す決意だけは強く、同時に自信にも満ち溢れていました。高校を卒業し、アルバイトをしながら美大予備校に通っていた秋ごろ、写真に興味を持ち始めました。シャッターを押せば撮れるという気軽さもきっかけのひとつでしたが、その頃から、写真は自分の内面と世界を同時に反映させることが出来る方法であることを、学ばずとも感じ取っていたと、今は思います。

大学に入学し、写真の学びのスタートが切られました。すると、入学前に抱いていたお手軽なイメージは早くも甘かったと知ることとなります。まるで写真という大きな海の中へのまれるような気持ちです。知らないことは多く、未熟すぎる自分に気づかされます。ですが知れば知るほど、写真は可能性と奥深さを覗かせ、私達をときめかせました。

しかし、ときめきも二転三転して絶望感に裏返ることがあります。勉強すればするほど何が正しいのか分からなくなり、中途半端な浅知恵が映像メディア自体への失望を生むこともありました。伸び悩んで、自分自身に希望が持てなくなることもありました。

希望の裏側を私達はいつでも抱えています。喜びと紙一重に存在する悩みや不安。つまり、それは写真は生半可な知識や技術では取り扱えない、ということなのです。テクノロジーの発達により、誰でも写真が撮れる時代になりました。だからこそ、私達は今まで培ってきた知識と力によって、より良い写真を作り上げていくべきです。

私達は希望を捨てず、子供のような素直さで聞く姿勢と、感謝を持って歩んでいきましょう。写真は自分自身の表現であると同時に、先人の努力や、研究によってここまで進化してきたからです。最後に、ご指導下さった先生方、友人に、心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

映像学科 卒業にあたり

鈴木 里実



私がこの四年間の大学生活で学んだことは、大学は必要ではないということです。少なくとも芸術学部はなくてもよいのです。大学で芸術を教えようとする機関や制度、そして芸術を学ぼうとする生徒。特に後者はよくありません。映画は学校に入らなくても作れますし、絵は人に言われて描くものではないはずです。

大学に入り、芸術を学ぼうとする人間は大学に来て何も学べません。技術的知識や人脈などの人間関係は作れるかもしれませんが、それも大学という枠の中での範囲に限られてしまうことが多いです。創造するという行為と、そこから生まれるものを芸術とするならば、それは他者から教わるものではないし、教えられるものでもありません。大学でそれを学ぼうとするのは、自分の人生を他人に委ねていることとなります。そんな無

責任な人生ならば、ない方がいいのです。

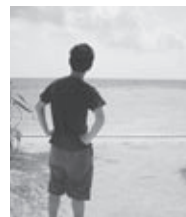
世界は広く、未知なものがたくさんあります。大学という枠にはめないで下さい。全ての枠に、自分をはめないで下さい。そうすれば、広がるはず。そして、その広い地で生きていくには、嫌でも自分の足で歩かなければならなくなるのです。

私は強くありません。いつだって他者の目が気になるし、それによって意思もぶれます。自信もありません。実際今だって、どの方向に向かえばいいのかわからないんです。それでも、進まなければいけないのです。後悔する時間、悩む時間があるなら、その時間で少しでも前に動けるはず。進んで下さい。それが、私から、私へのお願いです。

私を支え、たくさんの喜びを与えてくれる皆様、いつも、ありがとうございます。

デザイン学科VC

瀧上 陽一



期待とその倍くらいの不安で大学に入学した時には、まさかこんなにも早く卒業する日が来るとは思わなかった。まだまだやりたいことがたくさんあるのに卒業する日が確実に近づいてくると本当に切なく感じる。自分のやりたいことが本当にできたのか、と今更後悔しても遅いのである。

大学生活を振り返ると、常に忙しい日々を送っていたように思う。と言っても、実際は忙しくない日の方が確実に多いのに何か忙しくしていないと申し訳ない気分になってしまうので無理矢理忙しく振る舞っていただけかもしれない。しかし、何もせず暇をしている時より、忙しく必死に制作していた時の方が今となっては忘れられない思い出である。

と、まあ、もっともらしいことを書いているが文才のない僕にはこんな文章が限界なわけで、表現者としておもしろおかしく書けないことにため息が連発である。人と違うことをしなければいけない、と考えて大学生活を送っていたものの、結局は友人や先生など、いろいろな人の影響を受けて今の自分が形成されているのだとこの文章を書いている今痛感している。

しかし、そのすべてが今の自分にプラスになっていることに改めてありがたいと感じている。ともに切磋琢磨し制作してきた友人はもちろんのこと、厳しく指導してくれた先生、など四年間ともに過ごせたことには感謝してもしきれない。彼らの存在は僕の人生の中で本当にかげがえのない存在になっていることは言うまでもない。

ただ、得たものがあれば失ったものもある。この大学に入ってからだいぶ時間にルーズになってしまった。締め切り前はいつも徹夜だし、寝坊することも多くなってしまった。正直この原稿も締め切りを一日過ぎて徹夜で書いている始末である。こればかりは早く直さなければと思っているが、できるかどうかははっきり言えない。ただ、締め切り前の一番忙しい時間こそ、この大学生活で一番楽しい時間だったことを言っておきたい。(いいわけではない)

ここまで書いたが、全体を通して本当に月並みな文章しか書

けない僕はこれから一人の表現者としてやっていけるのか本当に不安である。どうせここまできたら最後も月並みな表現で終わってしまうと思う。

こんな僕に付き合ってくれた友人、本音で指導してくれた先生、ここまで育ててくれた家族に本当に感謝しています。ありがとう。

ああ、本当に月並みな男にならないようにこれから精進の日々である。

デザイン学科HP

増田由佳



終わりあるものとわかっていながら、この夢のような日々がもう二度と戻らないと知るのは、とても哀しくて、未だに信じられない気持ちでいます。

「自分にしか出来ないこと」を探して、この大学に入学してから長い時間がたちました。

何かを生み出す喜びは、次第に苦悩に変わり、人と意見を交わす刺激は、いつしか恐れに変わっていく中で、自分にしか出来ないことをすることは、即ち自分が何者であるかを真摯に探す、答えのない迷路のようなものだと知りました。

長い迷路は、結局のところ今もわからないままなのですが、「人を楽しませるおもしろいものを作りたい」というシンプルな気持ちに気付いた時、私はとても楽になれたのです。

誰でもない自分を認められたのは、52人の個性がぶつかり合う、素晴らしい仲間に出会えたからです。愛すべき仲間たち、彼らは私にたくさんの刺激と驚きと、多くの優しさをくれました。迷いも喜びもみんなに分けあえることが出来た4年間、それは私にとって夢のような日々であったのです。

みんな、馬鹿なことばかりして迷惑かけましたが、本当に楽しかったです。あっぱれ我が大学生活に悔いはなし。そして、いつかまた思いっきり下らないことを話しながら、その時その時にみんなが何を見て何を考えているのか知りたい、そう思います。

たくさんの感謝と愛を、この場を借りて。
本当にどうもありがとう、いつか、また会う日まで。

メディアアート表現学科

河野友香



片道二時間、往復四時間。今思うと、小学校から高校まで徒歩十分登校をしていた自分が、よく四年間通えたなと思います。「一限の授業を取らなければ早起きしなくて済むはず」と淡

い期待を抱いていたものの、一年の必修授業は何故か一限に集中しており、ほぼ毎日一限の時間に起きるはめになったのも今となってはいい思い出。「一、二年の内に単位取っておくと後で楽だよ」との姉の言葉を信じ、時間割をほぼフルで埋め、後悔したのもいい思い出。しかし後になって頑張っておいて良かったと姉の言葉に感謝もしました。

私はこの学科に入って以前と比べて視野が広がったように思います。そもそもメディアアートとはなんなのか、あまりわかっていなかった自分。普通科高校だった自分にとっては、『全員なんらかのアートが好きで、制作に本気で取り組んでいる』という状況自体がとても新鮮でした。先生も周りの学生達も濃い人間ばかりで、アートにも色々あるのだと知ることができたのは、なんでもありのメディアアート表現学科だからこそだと思います。

また、人前に立つことが大の苦手だった私が、生徒の前で授業をするまでに成長できたのは、教職の授業や教育実習のおかげです。つらく大変だった記憶が強いですが、それ以上に得たものがあった経験でした。

入学前には長いと思っていた四年間。実際はあっという間に通り過ぎてしまいましたが、非常に濃い四年間だったと思っています。「遠い」と文句を言いつつも学校に通えたのは、支えてくださった先生方、友達のおかげです。ありがとうございました。

アニメーション学科

鈴木敬典



徒歩10分の位置に家がありながら時間がかかった初登校から、近道を駆使するまでになった4年間。この道の景色もそろそろ見納めの時期になりました。

大学生生活を振り返ると、すべてが“縁”で繋がっていたのだと思います。

先生方や作品、技法、そして友人との出会いの縁。

アニメーションに対し無知に等しかった自分が、パソコンで絵を描くという初体験に戸惑い、先が思いやられた新入生の頃。追い討ちとばかりに、初挑戦した動画は枚数の描き過ぎで、スロー再生したかのような残念な映像になっていました。

そんな自分も何か役に立てないかと顔を出してみたのが、オープンキャンパスのスタッフ募集でした。

学校のイベントや制作作業での縁は広がり、学校の作業で毎日が楽しく忙しかった事が今では懐かしく思えます。学生証の写真を見るのも恥ずかしくなるほど成長出来たのは、大学生活があったからです。

オープンキャンパスに始まり、SA、卒業アルバム編集委員、卒制と、多くの方々にお世話になり、縁の繋がりのかげでこんな自分にも数々の機会を与えていただきました。“縁とは、すべてが繋がっていて、しかも次の縁を連れてきてくれるものだ”と、この4年間でそんなことに気付かされました。

最後に、この場を借りてお礼を言わせてほしいと思います。

ここに文章を残せる機会を下された、4年間すべての縁に感謝。本当にありがとうございました。

「芸術学部卒業・大学院修了制作展2009が盛況でした」



東京工芸大学芸術学部 卒業・大学院修了制作展 2009

写真学科

映像学科

デザイン学科

メディアアート表現学科

アニメーション学科

大学院芸術学研究科

平成21年2月20日[金] 21日[土] 22日[日]

六本木アカデミーヒルズ40 / 東京工芸大学芸術情報館

KOGEI
TCKYO POLYTECHNIC UNIVERSITY

2月20日から22日の3日間開催された卒業・修了制作展は、天候にも恵まれ、昨年にもまして多くの方が見ていただきました。学生やご父母、親戚・友人、そして同窓生、一般の方、特に若い方が多く来場していただきました。初日の20日には同フロアの別会場にて企業懇談会も行われ、学生が作品の前で企業の方と直接話をする姿も多く見られました。

広報委員 記と写真：福村 敏 (45期)
写真 : 糸賀成永 (56期)

開催日：平成21年2月
20日(金)、21日(土)、22日(日)

会場：六本木アカデミーヒルズ40
東京工芸大学芸術情報館



写真学科



ご挨拶

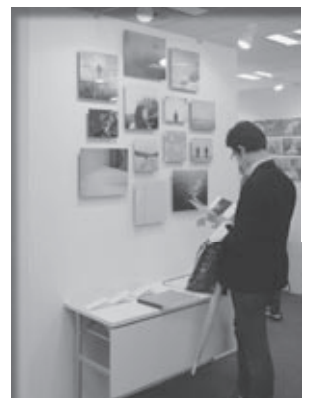
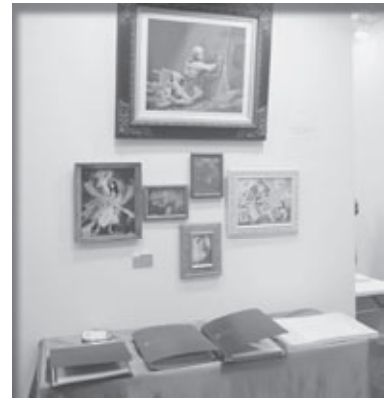
この冊子は東京工芸大学芸術学部写真学科の紹介冊子です。2009年3月に開催された写真展の展示作品の中から、写真学科の学生が制作した作品を、この冊子に掲載しています。

写真学科は、写真の歴史や理論、技術、表現のありかたを学ぶだけでなく、写真の社会性や文化性についても学びます。また、写真の制作過程や編集のありかたについても学びます。

写真学科の学生は、写真の制作過程や編集のありかたについて、実践的な学習を行っています。また、写真の制作過程や編集のありかたについても学びます。

写真学科の学生は、写真の制作過程や編集のありかたについて、実践的な学習を行っています。また、写真の制作過程や編集のありかたについても学びます。

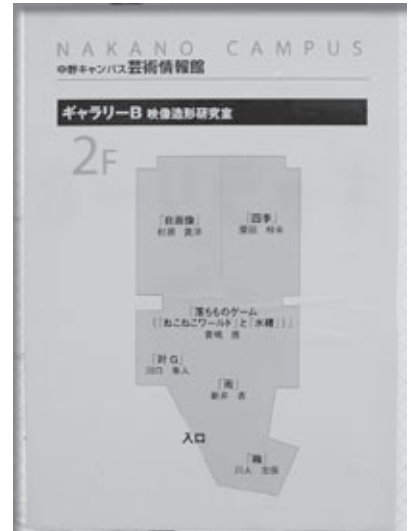
写真学科の学生は、写真の制作過程や編集のありかたについて、実践的な学習を行っています。また、写真の制作過程や編集のありかたについても学びます。

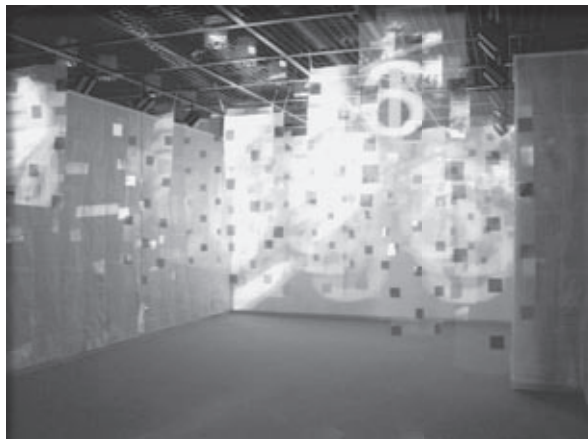




写真学科

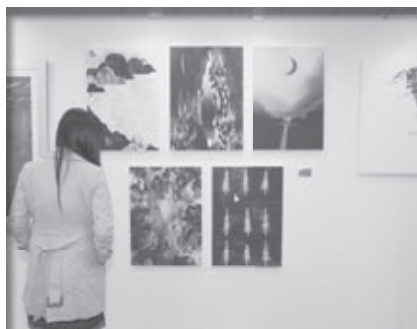
映像学科





デザイン学科V.C



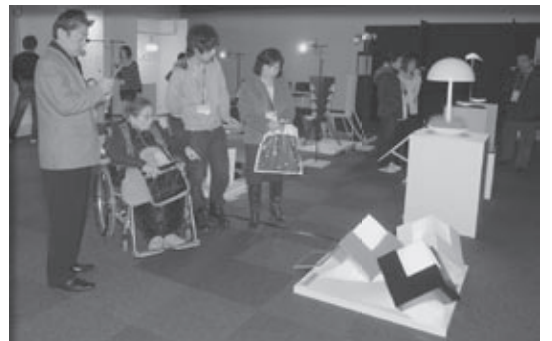


デザイン学科HP





デザイン学科HP



メディアアート表現学科

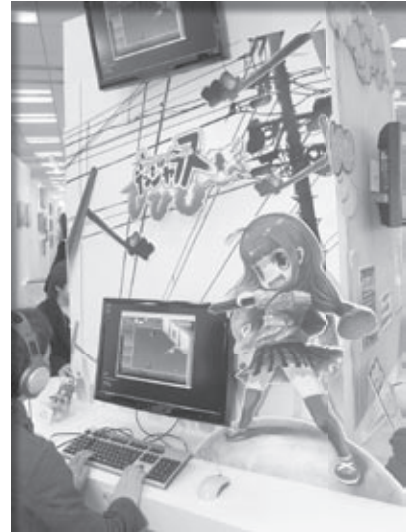




メディアアート表現学科



アニメーション学科





ひろばのページ

田沼武能作品展「子ども歳時記」



2009年1月5日(月)~2月1日(日)
10:00a.m.~5:00p.m. 入場無料
毎週月曜休館日(祝・祭日の場合は閉館)

JCII PHOTO SALON

田沼 武能 (24期)

中 一訓 (26期)

あのカメラ修理のバイブルが約30年の時を経て再登場!!
修理の実例を写真&図で丁寧に解説。

カメラ愛好家のための実践的入門書!

復刊ドットコムより復刊!

<http://www.fukkan.com/>



写真集出版記念パーティーと本

日時 2008.9.19 (金) 東京銀座三笠会館



桜井 秀 (34期)

アメリカ西部を撮り続けて15年、初期の段階で出会った酔っ払いのアーリーアメリカンらしき老人から天使の存在の話聞き、以来、天使を求めての旅も22回となり、それらをまとめた写真集「AMERICAN WEST」日本写真企画出版の出版記念パーティーを銀座三笠会館にて写真界の重鎮、東京工芸大の久保先生、池田先生、吉村先生、技術科34期の皆さんに多数のご参加を頂き、総勢100名を超える盛大な会を行いました。

同時に六本木ミッドタウン富士フォトサロンにてアメリカ国立公園19箇所を撮影した写真展「エナジー」2008年9月26日～10月2日も好評のうちに無事終わりました。

桜井 秀



出羽路 心の風景
—山形県庄内地方、心に生き続ける風物詩—



同窓 山形山五車亭「本茂九郎」

佐藤文一写真展
コダック フォトサロン
2008年7月28日(月)～8月8日(金)
10:00～18:00 土曜・日曜・祝日休館



佐藤 文一 (34期)

「出羽路・心の風景」 佐藤文一写真展を開催するに当たり、私、佐藤文一は昭和14年、山形県余目町（現庄内町）三嶋屋写真館（現在、写真のみしま）に6人兄弟の長男として生まれ、写真機に触れて60年、初めてコンテストに入賞したのも中学3年生の時でした。家業の写真屋を継ぎ仕事の傍らライフワークとしていろいろ写真を撮り続けてきました。

6年ぐらい前からカレンダー作りをはじめ、主に地元山形の庄内地方の風景や地元で伝わる民俗芸能の祭りを撮影して「出羽路 庄内」を都会の方々にも知っていただき、庄内の良さや魅力をみなさんにお伝えたく撮影してきました。

庄内地方出身の方には懐かしい風景や昔と変わらない伝統行事の神事、祭典などがあると思います。都会と違い、時の過ぎるのを忘れてしまいそうになる光景、また時間が止まっているかのような瞬間です。「癒し」という言葉が昨今、よく出てきますが出羽路には昔から心が和むシーンが当たり前のようにありました。ご来場の方々には「出羽路・心の風景」写される庄内の魅力を少しでも感じていただければと思っています。

佐藤 文一




確かな存在・私の東京
畑 鉄彦 展覧会

2009年1月22日(木)～2月4日(水) 10:00～18:00
★最終日は14時まで

Format gallery

青木 勝 (41期)

■単行本書名：「素晴らしい飛行機写真の世界」

■内容：39年間にわたって

飛行機写真の分野を開拓してきた
飛行機写真の第一人者青木勝が、

長年蓄積してきた経験をもとに、
飛行機の魅力、飛行機写真の魅力、

飛行機撮影のテクニック、
飛行機写真撮影のさまざまな楽しみ方について、
新たに書きおろしたものです。カラー作品多数収録。

「コンテンツ」

- PART1 飛行機の魅力
- PART2 飛行機を撮ろう
- PART3 空港へ行く
- PART4 撮影テクニック

■判型：A5判 200ページ オールカラー 1,575円



**素晴らしい
飛行機写真
の世界** 青木 勝

飛行機は、空を飛ぶという夢の化身。
不可能に挑戦した人類がついに手にした勝利。
ある、空の旅を呼んで、飛行機を撮りに行く。

畑 鉄彦 (41期)



織田百合子

(旧姓・渡辺勢津子(44期) 現姓・大熊勢津子)



「写真でたどる源氏物語の歴史」展は、写真に携わりつつ文学をしてきた織田百合子氏が「鎌倉でも源氏物語文化があった」という事実のを世間に知らしめるため、記録として撮った写真を並べて、「京都→鎌倉」という時系列の空間を創り、一枚一枚に詳細なキャプションをつけた、「写真」と「文学」が融合する写真展でした。

<http://ginreirair-nifty.com/kujaku/> (ブログ)



安念余志子 (46期)



中村 恭子 (70期)



馬込 博明 (81期)

個展 (イラストレーション)
2009年2月23日～28日

支部だより

群馬県支部

支部会開催報告

平成20年8月7日、高崎市内のホテルにて、永年の念願でありました第一回東京工芸大学同窓会群馬県支部会を開催することが出来ました。

当日は大学側から、内藤芸術学部長、田村先生、花川先生に御出席をいただき、宴にも華が咲き、楽しい支部会になりました。

群馬県支部長 黒柳 隆 (40期)
事務局 塩野 裕之 (58期)



石川県支部

田村先生・箱守先生を 迎え支部同窓会総会を開く

東京工芸大学同窓会石川県支部は、平成20年9月10日に芸術学部田村寛先生と工学部箱守健先生をお迎えし、平成20年度同窓会支部総会を金沢市内「割烹こうや」にて開催しました。総会には工学部を含め10名の会員の出席が有りました。

総会では今年度の決算報告と今後の同窓会運営について審議され、現石川県支部長小坂文誉氏(短52期)からは、支部長と執行部の交代の議案の申し出が有り、審議の結果受理された。

新支部長には、近岡房治氏(短36期)が選出され、総務には田中泰氏(工1期)、会計には山崎城一氏(応58期)が指名された。

総会後の懇親会には、芸術学部田村寛先生と工学部箱守健先生をお招きし、大学時代の話に花が咲き、大変和やかで楽しい懇親会と成りました。

懇親会の席上先生方からは、現在の大学の様子や、同窓会の現状・同窓生の消息・活躍などのお話があり、改めて母校に対する思いが募り、先輩後輩の絆も深まりました。

懇親会の中締めには堀井繁氏(短33期)が指名され、「新支部長を盛り立て同窓会の発展と活動をして行こう」とのお言葉が有り閉会となった。

東京工芸大学同窓会石川県支部 記

※前号写真不掲載の為、再掲載いたしました。





関西支部

「双美会報告」

～双美会：京都に集う 平成20年10月19日～

秋たけなわ！ 快晴に恵まれた10月19日（日）、京都の“がんこ高瀬川二条苑”にて例会を開催しました。

今回の会場は、庭苑を高瀬川の源流とし、慶長16年豪商角倉了以が築いた別邸跡でその後明治の元勳・山県有朋の別邸第二無鄰菴に、また

第三代日銀総裁川田小一郎の別邸などを経て現在は大岩氏の所有となっている。

会食した部屋は山県有朋が建てた「蔵」をそのまま活かしており、重厚で趣のある座敷！ 部屋名も当時のまま「蔵」であり、存分に満喫しました。

乾杯は23期上田史郎先輩の発声で開宴。各自の近況報告は、ほろ酔い気分でいつのまにか持ちタイムオーバーお構いなし！ 話題の尽きない懇親会場は3時間におよぶ大賑わいでした。中メは30期宇都宮和子氏の音頭で一本メ、次回を楽しみに散会しました。

なお、次回は「双美会」設立50年になりますので、それに相応しい催しを致したく思っています。

次ぎに、ご存じのとおり関西支部ではホームページを開設しており、HPで催しのご案内をしております（<http://www.t-kougei-kansai.jp/>）。「双美会」の集いには、現今卒業生の何方でもご参加戴ける会です。お仕事で或いは旅の途中などでご都合がつけば、ご遠慮なくご出席ください！ 歓迎します。

記 30期 福岡 武雄



写大43期同窓会

2008年11月22日（土）アルカディア市ヶ谷にて

2008年もおしめまつた11月22日、七五三の仕事もそこそこに同期会が開催され恩師8名・同期生46名が寄り集うことが出来、大変楽しいひとときを過ごしました。3時間にわたる宴もあっという間に過ぎ名残も惜しげに二次会に繰り出し帰宅は午前様。20年目、26年目、30年目と過去の3回開催し今回は41年目4回目の開催。未だに現役の方も多く、ますますの健康を喜びあい、また久しぶりの方の参加もあり二次会も大いに盛り上がりました。

四人展



スタ協四人展(メンバーの一人が奥田 昇(28期・同窓会副会長))がPortrait Galleryで2009年2月12日~18日に行われました。会場の写真では左端が奥田昇氏。(写真:佐藤雅英(34期))

広報委員会から 各支部長殿へのお願い

広報委員会では、各支部長殿に年3回発行予定の同窓会報「ひろば」の紙面に、各支部の様子や企画、計画案、それに限らず他の件(ご当地や観光地の案内、祭り、知り合いの同窓生が受賞されたとか、ご当地で作品展をされたとか、支部のPRの記事等)を「支部だより」の紙面に掲載し、新会員方々に紹介や支部の所在と意識を持っていただくために、支部の方々に広報委員から原稿依頼をさせていただきます。ご多忙のところ誠に申し訳ございませんが、原稿依頼を受けた支部長殿には期限内に担当者宛に郵送(またはメール添付にて)して戴けるようお願いいたします。

なお編集会議では予定のスペースを空けて待機し、発行予定月度内に全国約17,000名の同窓生のお手元に届くよう努めております。是非ともご理解ご協力戴けるようお願い申し上げます。

広報委員長 中村正彌(34期)

原稿送付先: 〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5東京工芸大学同窓会 福村 敏(45期) email: binfuku@dsnt.kougei.ac.jp

訃報(敬称略)

- | | | |
|----------------------|-------------------|--------------------|
| 竹内 龍夫(第2期) | 松岡 正次(第33期・写真技術科) | 黒丸 良平(第42期・写真技術科) |
| 平間(佐藤) 彰(第17期・写真理学科) | 伊藤 裕通(第34期・写真工業科) | 坂田 英明(第42期・写真工業科) |
| 土屋 忠行(第17期・写真理学科) | 辻本 武司(第34期・写真工業科) | 高橋 順(第44期・印刷科) |
| 増田 石夫(第22期・写真化学工業科) | 笠原 栄司(第35期・写真工業科) | 武笠 るみ子(第45期・写真応用科) |
| 中山 基(第24期・写真工業科) | 森山 和子(第37期・写真技術科) | 市川 勇(第51期・写真印刷科) |
| 鈴木 哲夫(第27期・写真工業科) | 森下 俊二(第39期・写真工業科) | 江原 栄(第62期・写真技術科) |
| 長谷川 亨(第30期・技術科) | 山本 忠春(第39期・写真印刷科) | |
| 大久保 雅男(第32期・写真工業科) | 浅野 憲司(第40期・写真技術科) | |

編集後記

学位授与式を迎えられた皆さんご卒業おめでとうございます。
 大正15年に旧制・東京写真専門学校を卒業された一期生23名の先輩から数えて同窓生は18,000余名となるそうです。
 同窓会では学位授与式後の「卒業祝賀会」で、卒業と同時に新会員となられた皆さんを祝意のうちにお迎えいたしました。
 委員一同この「ひろば」が皆さんと同窓会をつなぐ魅力ある広報誌となるよう力を入れてまいりますのでどうぞよろしくお願いたします。

(49期・板垣雅春)